

第4回「ゆめづくりまちづくり賞」受賞作品の概要

<優秀賞> 3団体

◆防災・環境共生を次世代につなぎ進化させる

(養田まちづくり委員会)

加古川市養田地区では、阪神・淡路大震災や身近な地域で目の当たりにした自然災害をきっかけに、これまで実施してきた環境保全活動から、将来を担う子どもたちと一緒に防災活動に発展させたまちづくりに取り組んでいる。

町内一斉クリーン作戦や防災訓練などの活動の参加者は年々増加し、毎回300～450人が集まっており、その他の運動会や祭りといった地域行事も活性化している。

子どもたちの参加を重点的に呼びかけ、子どもから大人まで参加したいと思わせる仕組みの工夫が活動の継続と活性化の秘訣となっており、世代間交流につながる地域コミュニティの形成に貢献している。



防災訓練での人命救助実習



地域内のお寺での防災クイズ



町内一斉クリーン作戦を毎年実施



地元の中学生が田植え・稲刈りをした餅米で炊き出しのぜんざいづくり

◆「岩屋いなか市」をとおして、 地産地消、都市と農村との連携で持続可能な地域づくり

(風の会・青葉)

都市と隣接する農村である奈良県山添村岩屋地区では、小学校の廃校舎を利用し、有志による手作りの即売会「岩屋いなか市」を立ち上げ、地区内で採れた農産物や加工食品等の販売を行っている。また、村内における年3回の「岩屋いなか市」の他、隣接する周辺都市への出張販売を毎月定期的で開催している。

この取り組みが好評で、農村と都市との交流が進み、地域のコミュニティバスが復活したり、村内の他地域にも「いなか市」が波及する等、持続可能な地域づくりの方向性を示す取り組みとなっている。高齢化や耕作放棄地の広がる地域の課題に対して、有限である地域資源を効率的に活用し、持続可能な形で循環させながら地域の再生・活性化に貢献している。



「岩屋いなか市」の様子



野菜を持ち寄り、いなか市に出店



大学生もボランティアとして参加



「岩屋いなか市」出張販売の様子

◆コミュニティパワーでつなぐ未来“21世紀のくにうみの島”

(ガーデンクラブ バーベナあわじ)

淡路島の地場産業である瓦、歴史、史蹟、環境を活かした花壇づくりを中心に、①人づくりふれあい活動(子どもの情操教育、福祉活動等)、②緑化啓発活動、③沿道・施設緑化、④環境保全活動を4本柱に、花と緑を通して多岐に渡る活動を展開し、コミュニティの形成がはかられている。

淡路島の特徴を活かした活動を展開する中で、地域の良さや歴史・文化、自然共生の大切さについて次世代を担う子どもたちに花と緑を通して伝えている。また、各自の特技に応じて、会員が適材適所でリーダーとして輝くような工夫が活動に仕込まれており、コミュニティの結びつきや絆が醸成されている。会の活動が、住む人にも訪れる人にも心地よい魅力ある淡路島づくりに大きく貢献している。



小学校での緑花学習教室



福祉施設での寄せ植え交流



淡路島の昔の嫁入り風景を花壇で再現



花と緑のまちづくり・CO2を減らそう啓発活動

<奨励賞> 1団体

◆水の浄化をテーマに子どもたちと一緒に環境問題を考え作る能

～新作能「水の輪」～

(公益財団法人 山本能楽堂)

「現代アート」と「能」を融合させた環境をテーマとする新作能「水の輪」は、平成21年度から繰り返し公演を行い、次世代を担う子どもたちに環境の大切さを伝えている。

公演にあたり、子どもをキャストイング(一般公募)し、舞台稽古や衣装作成から歴史・文化について学ぶワークショップを数回実施することで、子どもたちが自ずと水の大切さや地域について考える場となっている。新作能「水の輪」の上演は、大阪市内の活動から、淀川流域の上流に位置する近江八幡での公演にも発展し、「水」を大切にする気持ちを媒体として地域間の交流の結びつきにも寄与している。



天満橋・八軒家にて「水の輪」を上演



子どもたち扮する水鳥が、力を合わせて川を掃除し水をキレイに甦らせる



ゴミ袋のドームの中で水の大切さについて考える
(ワークショップの様子)



伝統工芸品「八幡瓦」を使った衣装作成風景